

遊 び

松 島 暢 志

私たちの中で遊びを一度も経験したことがないという人はいないでしょう。子どもは特に、多くの時間を遊びに費やします。では、そもそも遊びとは何なのでしょう。本項では、遊びについて心理学の観点から説明します。

遊びとは何か、については古くから数多くの定義がなされており、全ての人が納得する遊びの定義はないといってもよいでしょう。しかし敢えて説明するとしたら、遊びには、①強制されるものではない自発性、②管理や束縛のない自由性、③目的達成のためではなくそれ自身が楽しい娯楽性、④現実生活の価値から離れた非現実性、⑤拡散的思考による創造性の、5つの特徴を持つと考えることができます。これらの特徴すべてを備えている遊びもあれば、部分的に含む行為もあります。

人間が遊ぶ理由を説明した理論も数多くあ

り、代表的なものは下の表1のようにまとめられます。それぞれの理論で説明がつく部分もありますが、それだけでは足りない部分もあります。例えば、①余剰エネルギー説では、私たちが疲れている時でも遊びたくなるという現象を説明することはできません。②生活準備説も、子どもは大人のマネをしています、その行動が将来役に立つかどうかは分かっていません。保育者を目指す人は、ピアジェ (Piaget, J.) の提唱した⑧認知発達理論による遊びの発達と分類をしっかりと勉強しておくとも良いでしょう。

〈引用・参考文献〉

佐々木晃 遊びの発達 新井邦二 (編著) 図で分かる発達心理学 福村出版 p48-58, 1997年

表1 遊びの理論

①余剰エネルギー説	生活していったなかで余った、余剰エネルギーを消費するために遊ぶ。
②気晴らし説	仕事や勉強をして消耗したエネルギーを回復するために遊ぶ。
③生活準備説	将来の生活のために、ままごとなどを行う。
④反復説	「個体発生は系統発生を繰り返す」という理論から、子どもの遊びは原始時代の人間の行動に相当する。
⑤浄化説	生活の中で蓄積された緊張や、抑圧された感情を発散するために遊ぶ。
⑥自己表現説	仕事や勉強といった活動の中では満たすことができない、支配欲や成功感などを充足するために遊ぶ。
⑦生物学説	手足などの身体的機能が発達してくると、その機能を使用するために遊ぶ。
⑧認知発達理論	外界の事象を自分に取り入れていく同化の過程が遊びであり、外界に適応させていく調整の過程が模倣である。